

資料室だより 129

フォルトゥナートゥスの研究書を2冊購入しました。

+Venantius Fortunatus: Personal and political poems

+Venantius Fortunatus: A poet in Merovingian Gaul

いずれも著者は Judith W. George です。フォルトゥナートゥスのラテン詩に英訳と解説が付いています。

ヴェナンティウス・フォルトゥナートゥス(535 頃~600 以降)は教会音楽を勉強されている方には馴染み深い *Crux fidelis*, *Vexilla regis* などの十字架賛歌の作者で、ラテン教父時代最後の詩人にしてポワティエの司教だった人です。カロリングルネサンス前に活躍している人なので、グレゴリオ聖歌の豊かなレパートリーと典礼が整う以前の聖歌作者です。上記の十字架賛歌は成立年代が 569 年、というふうに音楽史年表に載っております。中世初期はこのように作者も年代も明らかな場合があります。中世は一般的に作者不詳の世界ですが、中世初期一すなわち古代末期と連続性がある時代にはその古さゆえに作者もはっきり残っているのかもしれませんが。古代のキケロらも作者と作品が同定できます。同じようにフォルトゥナートゥスの場合も「詩歌集」という形で作品が残っています。聖歌作者が完全に無名性の時代に入るのはその先のことで、中世盛期にかけて著者性、著者の独自性があまり意味を持たない段階に入ります。

初期ラテン聖歌の勉強のためにこの2冊を役立ててください。

ちなみに *Crux fidelis* は聖金曜日の十字架賛歌としてご存じの方も多と思います。聖歌集の *Crux fidelis* のところを見ますと「Venantius Fortunatus」と作者名が記されていることもあります。しかしフォルトゥナートゥスの側から検索すると作品に *Crux fidelis* は出てきません。その代わりに、*Pange lingua gloriosi* が彼の作として出てきます。実はフォルトゥナートゥスがこの歌を作ったときは、*Crux fidelis* はこの賛歌全体の8節として作られました。冒頭は *Pange lingua* だったのです。カンタトリウムの写本が作成された時点ではすでに *Crux fidelis* は繰り返し部分として冒頭にきています。

) (杉本ゆり 記)